

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。	
1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力	2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
3 心身ともに健康であり続ける力	

2 中期的目標（R5年度～R7年度）

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成 （1）基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ ア 遅刻指導と身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図ることで、遅刻「0」の学校をめざすとともに基本的生活習慣を確立させる。 R7年度には年間遅刻数が0回の生徒が50%以上をめざす。（R3：41.5%, R4：32.9%） イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図ることで、規範意識をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率95%以上を維持する。（R2：96.3%, R3：95.8%, R4：95.6%） （2）学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ ア 学校行事・HR活動の「質の向上」を通して生徒の自己肯定感を高める。また、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援することによって、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるようにする。 生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率をR7年度には80%以上とし（R2：75.9%, R3：73.7%, R4：78.8%）、生徒向け学校教育自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率をR7年度には90%以上をめざす。（R2：87.5%, R3：77.6%, R4：89.1%） イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、吹高見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに充実した内容を生徒会執行部を中心に企画・運営することを通して「吹高生」としての自覚を高める。 生徒向け学校教育自己診断における部活動に関する肯定率をR7年度に80%以上をめざす。（R3：73.8%, R4：71.8%） ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め尊重していくことのできる精神をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率を毎年引き上げ、R7年度には80%以上を維持する。（R2：80.4%, R3：78.5%, R4：80.1%） （3）生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。 ア 「進路のてびき」を作成し系統的な進路指導を継続するとともに、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習を定着・発展することで生徒の進路実現を図る。 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する肯定率をR7年度には90%以上とする。（R2：84.3%, R3：89.1%, R4：89.1%） イ 進路検討会議において生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認することで、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施し、生きる力をはぐくむ。 保護者向け学校教育自己診断の進路指導に関する肯定率をR7年度には90%以上にする。（R2：76.9%, R3：78.6%, R4：84.8%）	
2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成 （1）生徒の持つ学力を最大限に引き出す ア 公開授業や研究授業の定期実施、授業アンケートによる綿密な分析、シラバスの充実、オンライン授業、ICTの活用促進等のさらなる授業改善に組織的に取り組むことによって基礎学力の定着を図り、主体的に学び続ける力をはぐくむ。 R7年度生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度の平均3.20以上を維持する（R2：3.24, R3：3.30, R4：3.37／満点4.0）。 イ 個別自習室・図書室・食堂等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させることで、生徒全体の学力の向上を図る。 教職員向け学校教育自己診断の講習に関する肯定率をR7年度には80%以上をめざす。（R2：49.0%, R3：65.4%, R4：58.3%）。 ウ 1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を通して、2年生からの進学クラスを開設し、意欲的に学習活動に取り組む態度をはぐくむ。 1年生終了時での進路指導に関する肯定率をR7年度には90%以上を維持する。（R1：82.4%, R2：88.0%, R3：91.4%, R4：92.6%） （2）生徒の力を育成する様々な取組みの充実 ア 学習指導要領の改訂に伴い、新教育課程や総合的な探究の時間の活動実施を視野に入れて取組みを実施することで、グローバル化・情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成する。また、学校全体として道徳教育の充実に努めることで、豊かな情操や人間性をはぐくむ。 イ 放課後講習を取り入れた「進学クラス」に対して、学力向上に向けた取組みを組織的に実施することによって、難関・人気大学へ合格する力を育成する。 R7年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関および人気大学への合格者を、四年制大学合格者全体の30%以上を維持する（R3：39.0%, R4：31.0%）。	
3 心身ともに健康であり続ける力の育成 ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、ヤングケアラーをはじめ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。加えて、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用等を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。 生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率を引き上げ、R7年度には平均80%以上をめざす。（R3：75.8%, R4：73.7%） イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。 生徒・保護者向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均をR7年度には70%以上をめざす。（R2：77.9%, R3：70.5%, R4：69.0%） ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。	
4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組み、保護者ならびに地域との連携の強化 （1）運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。 ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。 イ 学務グループ（教務部・進路指導部・情報管理部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。 ウ 校内研修（事務会計、要配慮生徒情報、個人情報取り扱い、最新の救命救急、観点別評価等）を職員会議でのミニ研修を含めて実施し、常に学び続ける教師集団を形成する。 （2）ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努めるとともに、全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。 校内メールや共有フォルダによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、会議のペーパーレス化を図り、職員会議の内容のさらなる充実を図ることによって、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 教員向け学校教育自己診断等の校務の効率化に関する項目の肯定率をR7年度も80%以上で維持する。（R2：71.2%, R3：81.5%, R4：82.1%）。 （3）地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。 ア 学校行事や登下校指導の機会等を利用して保護者や地域住民と、また授業や特別活動等では地域教育機関等との連携を強化し、引き続き開かれた学校づくりをめざす。 イ 首席が中心となり、効果的な広報活動（学校説明会、中高連絡会、出前授業、パンフレット作成、ホームページ・メールマガジン・SNS等の発信）を検討し実施する。 保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率をR7年度には85%以上を維持する。（R2：80.8%, R3：82.4%, R4：88.4%）。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
■生徒指導	■第1回：6月30日 ・協議① 令和4年度 学校経営計画について

府立吹田高等学校

遅刻、交通ルールに関する肯定的回答率が90%を上回った。生徒一人ひとりが「ルールを守る」ことを意識しながら日々前向きに学校生活を送ろうとしていることが伺える。その一方で、遅刻数は年々増加し、遅刻指導の対象となる生徒は毎月とても多くいる。「ルールを守る」ことはもちろん大切だが「何のためのルールなのか」を理解することができれば、今まで以上に規範意識を持つことができ、上記の指導は少なくなっていく。遅刻指導は「近い将来社会に出たときに、時間を守り人から信頼されるためのルール」で、通学安全指導は「自分や周りの人の命を守るためのルール」である。学校の指導を通して、生徒の基本的な生活習慣の確立を促していきたい。

■生徒会活動

全学年での肯定的な回答が今年度は93.5%となり昨年度の89.1%から上昇した。直近5年間でも一番良い結果となり、今年度も生徒が前向きに取り組んでくれた。

今後も生徒たちが行事を通じて「達成感」と「充実感」を得て、それが自分自身の成長につながるような行事を生徒会部が中心となり学校全体で取り組んでいきたい。また生徒会執行部と一緒により充実した行事を行っていきたい。

■クラブ活動

生徒会部として部活動を活発に行っていると判断しており、これは生徒の自主性や、保護者の皆様の理解、多くの教員の協力の元に行われており、この体制に感謝している。

更なる活性化のためにはクラブ部員の活動の様子を、他の多くの生徒に知ってもらう機会が必要である。部活動ブログをはじめ、生徒会便り等で部活動の情報を発信していきたい。

■互いを認め合える集団づくり

人権に関する項目における肯定率は87.6%であった。生徒の小さな変化に気づけるよう、アンケート結果をより効果的に活用していくとともに、日頃の生徒の様子を注意深く見守り、トラブルを見逃すことなく生徒一人ひとりが安心して過ごせる環境作りに努めたい。また、年間HR計画に位置づけて人権HRを全学年で計画的に実施し、生徒の発達段階に応じて、人権についての正しい知識と理解の育成に努める。

■授業改善

8割を超える生徒が肯定的意見をもっており、授業改善や授業規律の確立に対する意識や姿勢は高い。年に2回実施する授業アンケートの振り返りや公開授業等を通して、すべての教員が自らの授業技術を磨く機会を積極的に設けている。生徒へ1人1台端末が導入され、今後はより一層ICTを取り入れた更なる指導方法の改善に努める。また、指導と評価の一体化を意識した取組みを進めることで、引き続き総合的な授業力の向上に努めていきたい。

■進路指導

生徒の進路指導に関する項目の肯定率は90.9%となり、充実した進路移動を実施することができた。一方で1割近くの生徒には否定的な回答となっていることから、更なるニーズへの対応も必要である。学習支援クラウドサービスやデジタル資料の活用とあわせて、進路指導室における対面相談や進路指導部主催の各種行事・取組などで、あらゆるニーズにこたえる進路指導を実施していきたい。

■教育相談・支援教育の充実

教育相談に関する項目の肯定率は生徒79.4%、保護者77.0%であった。

生徒自らが持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談や支援教育の果たす役割は、ますます大きくなってきている。引き続き、生徒情報会議（みかん会議）やサポート委員会を機能させ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、相談体制を一層充実できるよう環境を整えていくと共に、思春期講座、他者理解のための講演会等、心身の健康の充実について意識を高める教育活動を行っていきたい。

■校内美化

清掃に関する項目の肯定率は、生徒78.4%、保護者66.4%であった。生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という気持ちで清掃に取り組むことで、「古いけれど、手入れの行き届いた清潔な学校」につながる。校舎設備の老朽化の中、通常清掃、清掃徹底週間、施設設備の安全点検等の活動を通して、自らの学習環境を清潔に保とうとする意識や美化意識の定着を図りたい。

■校務の効率化

今年度は教職員の効率化に関する項目の肯定率が69.4%と昨年度の82.1%を大幅に下回った。運営委員会、職員会議はペーパーレス化し、タブレットでデータを閲覧しながらの会議参加となり、これまでと比べると会議の時間は短縮され、空いた時間にタイムリーな「ミニ研修」や、時間が設定しにくい委員会等の話し合いの時間が確保できているようにはなっている。こういった会議とは違う場面での校務が効率化されていないという意見が多いのであろうと想定される。また、こういった時間短縮の効率化が当たり前になり、この短縮が短縮の実感として認知されていないことも想定し、今後は簡単な意見交換は校内メールや校内SNSを活用するなど、多方面での効率化を図っていく必要がある。

・協議② 令和5年度 学校経営計画について →全会一致で承認。

・協議③ スクールミッション・スクールポリシーについて →全会一致で承認。

【委員より】

・道徳教育の充実とは、講義のことか。今の社会情勢の中で、高校生は成人しており重要な年にある。我関せずの立場を取って犯罪につながるケースも多いので、道徳教育を積極的に取り組んでほしい。

・情報モラルについて。生成AIが報道されているが、例えば授業で吹田高ではどのように指導しているのか。→今のところ生成AIの今後の使い方について、教育庁ではまだ検討中の段階。教員間で、頼りすぎるのは危ないという話を共有している。生徒に対しても、情報の授業で「吹田高校」についてAIに文章を生成させても、間違った内容もあり、鵜呑みにするものではないという指導も行っている。

・鳳志会プレスで毎回素晴らしい先輩方が紙面に載っているが、そういった方々が在校生に向けて話をする機会があれば良いのではないか。→一年の離れた先輩を呼ぶ試みはこれまであまりしてこなかったが、先輩の話を聞くのはいい刺激になりそうである。現在も3年生の生徒向けに、最近卒業して就職・進学した先輩の話を聞く機会を設けており、それをきっかけに意欲的になる生徒もいる。

・人間力が育っていると感じる。吹田高校を卒業した子どもが、吹田高校を卒業したあとも高校での人間関係を続けており、それぞれ良い社会人になっている。

・全員が進学希望ではなく、勉強を嫌がる人も多いだろうが、そういう人にはどのように力をつけさせているのか。→学力とは「学ぶ力」なので、学ぶ力はどの道に進むにしても必要だと伝えている。また、資格取得の機会を与えており、今年度から1年生と2年生は全員学校で漢検を受験することになっている。そして、ビジネス文書実務検定も授業で行い、今年度7月には69名が受験する。ちょっとでもやったことがつながったという経験をさせたい。

・1人1台端末を使った学習とは、具体的にはどのようなものか。→課題を受け取るツールとして幅広く使われている。具体的には情報では毎週タイピングの課題を課している。理科では授業の終わりに授業のふりかえりを1人1台端末で作成、提出させている。

※ 令和5年度使用教科書閲覧

■第2回：11月17日

※ 協議の前に学校の授業・施設の見学を実施

・協議① 令和5年度学校経営計画の進捗状況について

・協議② 令和5年度 第1回授業アンケートについて

【委員より】

・授業アンケートでは、生徒意識の項目が他とは異なって3.4を超えていないということだが、生徒の取り組みが3.4を超えているため、今後連動して上昇するはず。遅刻する生徒と生徒意識の連動についても検討していただきたい。

・文化祭と修学旅行をコロナ以前に戻せられるように力を入れているということで、今回はご家族のみの参加だったが、（コロナ）以前は近隣住民にも案内していたか。→以前は文化祭前に近隣の方々にチラシを配っていて、そのチラシを持参された方は参加できた。各生徒に3枚チケットを渡して友人を招待することもしていた。そのような状態に近づけたらと思っている。

・進路の取組みが幅広く、深くなっている。卒業生が在校生に話をする取組みももっと進めていってほしい。→(すでに取り組んでいる大学進学した卒業生に話をしてもらうことに加えて) 就職した卒業生からも2年生を対象に話をしてもらいたいと思っており、この数年間の卒業生に声をかけている途中。生徒達は非日常の中で大きく学ぶと考えているため、機会を設定したい。

・学校説明会が単なる説明会のみでなく、他のイベントとセットでやられていることは1つの魅力で、今後も続けていくと学校のレベルが上がると思う。卒業生がどのような進路でどのように社会貢献しているかを説明会でアピールすることは非常に価値がある。

・保護者への学校説明で卒業生が就職した企業名をだすことはできるのか。→説明会にて紹介している。中学校の先生向け説明会の個別案内などでは、就職が強いと思っていなかったと驚かれることがある。

■第3回：2月1日

・協議① 令和5年度学校経営計画の達成状況について

・協議② 令和6年度 学校経営計画（案）について

・協議③ 令和5年度 第2回授業アンケートについて

・協議④ 令和5年度 学校教育自己診断について

【委員より】

・広報では、50ほどの学習塾にも行かれたそうだが、どんな資料を使用しているのか。→学校説明会の内容と毎年の進路実績の資料をパンフレットに掲載している。パンフレットはカラフルでキャッチーなもので、取っていつでももらいやすい。

・クラスルームとはどういうものか。→生徒への連絡ツールで、オンライン授業をすることもできる。授業ごとに一つのクラス（コンピューター上のフォルダのようなもの）を作り、先生から連絡でき、課題を送ることや生徒から質問をすることもできる。例えば、情報の授業でれば週に1回必ずタイピング練習の課題を送っている。

・クラスルームで生徒に連絡することができるが、親にも連絡することはできないか。今後全てペーパーレス化するのか。→教科書がデータ化されていくこと等が予想されるが、まだまだ紙の重要性や、教科書を持つという必要性もあると思うので、現状すぐにペーパーレス化することはない。

・遅刻の数について、学校と生徒のお互いが納得いくような指導や早朝登校指導を辛抱強く行わないといけない。また、教職員の「校内メールの定着で公務の効率化がはかられている」という部分が大きく落ち込んでいるというのは、私はプラスに捉えた。様々なところでペーパーレス化が定着しているので数値が低くなっているのではないかと考え、下が

府立吹田高等学校

	るのは仕方がないこと。次に効率化に役立つことは何かという観点でいろんな先生の意見を聞きながら考えていければよい。 ・令和6年度学校経営計画ついて、いい意味でスリム化ができている。数値目標、評価指標もこれまで以上に明確になったので見ていて、いろいろな評価をするときにわかりやすいという印象。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重 点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、教員間の共通理解のもと、細かい目標設定を行いつつ遅刻指導を行う。その際、遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的生活習慣を確立させる。 イ、頭髪指導においても、教員間での共通理解のもと、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取組みを展開する。 ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校の連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等の身だしなみ指導の徹底をめざす。 エ、学年ごとの交通安全講習会や登下校指導を通し、継続的な交通マナー指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。 オ、授業マナー（バール着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源 OFF 等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。 カ、3年間を通して情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。	ア、年間遅刻数が0回の生徒が38%以上をめざす。 [32.9%] イ、頭髪に関する再登校指導を10件以下にする。[13件] ウ、身だしなみ指導における、預かり指導件数を40件以下をめざす。 [43件] エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率90%以上を維持する。 [97.5%] オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率90%以上を維持する。 [92.6%] カ、生徒向け学校教育自己診断における情報モラルに関する項目の肯定率90%以上を維持する。 [92.7%]	ア、29.8%となり、目標値には達していない【△】 原因は形式だけの指導ではなく、生徒の自主性に委ねたこともあると思われるが、遅刻数0回にこだわらず1回および2回の生徒も考慮すべき、あるいは遅刻総数を指標にしても良いと考えている。 イ、16件となり、目標値には達していない【△】 再登校指導の在り方を改めて一考する必要があると思われる。教育的効果のある頭髪指導を引き続き模索していく。 ウ、74件となり、目標値には達していない【△】 数値は大幅に上回ったことは丁寧な指導を継続できていると捉えることもでき、教育的効果のある身だしなみ指導を引き続き模索していく。 エ、登下校マナーの肯定率が97.3%であった。交通安全講習会や登下校指導を通してマナーに対する意識が高くなってきていると感じる。一方、登下校中の事故や近隣住民からの意見も少なからずあり、次年度は講演・実演の実施を検討し、より効果的な通学安全指導をめざす。【◎】 オ、生徒の受け止めとしては、授業規律に関する肯定率が90.5%であった。昨年より減少しているが根気強く指導を継続していく。【○】 カ、アンケート結果は全体の肯定率92.9%と昨年度より上昇した。特に3年生では94.1%の肯定率であり継続的、段階的な学習が着実に生徒の情報モラルへの意識を高めることにつながっていると思われる。【◎】
	(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制を引き続き強化する。 イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。 新入生が入部しやすいように期間の設定し、部活動で頑張っている生徒の活動に関心を持てるよう壁新聞や配付用生徒会新聞などの企画を検討する。 ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。また、3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。	ア、生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率85%以上を維持する。 [89.1%] 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率75%以上を維持する。 [81.5%] イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率を生徒:75%以上、保護者:70%以上にする。 [生徒71.8% 保護者68.5%] ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率80%以上を維持する。 [84.5%]	ア、生徒の肯定率は93.5%【◎】 教員の肯定率は72.2%【△】 今年度における生徒の行事への肯定率は昨年度に比して大幅に上昇しており、満足いく結果ととらえている。教員の肯定率が達していないのは学校行事が数年ぶりに通常開催となり、昨年度が参考とならず、負担感があったかと思われる。 イ、生徒の肯定率は72.1%、保護者は72.5%となり生徒の肯定率については目標値を下回ったが、保護者は上回った。部活動の在り方および生徒の部活動に対するニーズ等、学校全体で話合っていく。【○】 ウ、肯定率85%であった。いじめ等への対応については82.9%、人権に関して学ぶ機会については87.1%と全体でいずれも昨年度、また目標値の80%を上回った。いじめアンケートの回数が増え、人権担当および学年を中心とした丁寧な聞き取りや、問題が生じたときの人推委の迅速な対応等が生徒の理解、共感につながっていると思われる。【◎】

府立吹田高等学校

	(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ	ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。 - 各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。 「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示する。 「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について検討を行う。 イ、就職希望生徒（学校幹旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う。 ウ、「進路検討会議」の定着を図り、課題を抱える生徒の進路実現に向けての課題を早期に掘り起こし、計画的支援につなげる。 「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に1回、3年担任と進路指導部の連絡会を2回実施する。	ア、生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上を維持する。 [81.3%] イ、就職希望生徒（学校幹旋）の卒業時の内定率100%を維持する。 [100%] ウ、教員向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率70%以上にする。 [65.4%]%	ア、90.9%の生徒が、学校が提供する情報や進路HRが将来の進路を考えるうえで役に立つと回答しているのはいいことだが、生徒がより主体性、計画性を持って進路実現に向かうには、改善が必要である。【◎】 - 進路ガイダンスももちろん必要ではあるが、体験型授業や就職インターン等の経験をもっと積ませたい。 「進路指導計画」を進路別に詳しく提示する必要がある。 「吹田進路プログラム」も今年度から始めた「看護医療プログラム」「保育プログラム」等進路別に細分化する必要がある。 イ、就職希望47名（公務員2名含む）の全員が内定を獲得した。4月からの就職講座をはじめ、きめ細やかな指導が結実している。【○】 ウ、肯定率は75.0%であり、昨年度と比べると大きく上昇した。情報提供を多くしたことと看護医療プログラム、保育プログラム、公務員試験対策講座等、生徒の将来につながる取り組みが一定の評価を得ていると思われる。【◎】
2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成	(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す	ア、進路指導部、学年が連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。 イ、観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）の充実を図る。年2回（7月,12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 ウ、1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を進める。 エ、生徒1人1台端末を受けて、ICTを活用した授業等の取組みを一層進め、研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。	ア、保護者向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率を80%以上を維持する。 [81.3%] イ、授業アンケート結果の平均3.30以上を維持する。 [3.37] ウ、1年生の生徒向けのキャリア教育に関するアンケートの肯定率を90%以上を維持する。 [92.6%] エ、教職員向け学校教育自己診断での授業力向上に向けての取組みの肯定率90%以上を維持する。 [96.2%]	ア、肯定率は81.6%となっており、生徒の満足感がそのまま保護者の満足感につながった。今後は個別自習室の利用の推奨、学習支援クラウドサービス導入による自学自習の習慣の確立とともに、教え合いながら学べる学習室を作り、大学のインターン生に教えてもらう取り組みも視野に入りたい。【◎】 イ、年間平均3.39に達しており、昨年よりも一層生徒の満足度が向上している様子が伺える。この結果の1つとして、1人1台端末の環境により、各教員が工夫をこらした授業を展開し、授業力向上へ取り組んでいると見受けられる。教科ごとに設定した観点別における評価も、生徒にとってわかりやすく、学習改善につながっていると思われる。今後も学校全体として授業力向上のために、各々が課題を明らかにし改善していく。【◎】 ウ、1年生の生徒向けキャリア教育の肯定率は90.2%であり、キャリア教育における取組が評価されていると考えられる。【○】 エ、教職員の肯定率は88.6%と指標を下回ったが、全教員のタブレット活用の促進のため、学習支援クラウドサービスの登録作業などを授業内で実施した。来年度はクラウドサービスの活用を図りたい。【△】
	(2) 生徒の力を育成する、様々な取組みの充実	ア、学習指導要領の改訂を踏まえ、観点別評価の点検をするとともに、総合的な探究の時間の活動内容を精選する。 各教科で観点別評価の校内研修を引き続き行うとともに、総合的な探究PTで活動内容を精選して議論を深める。 イ、大学や地域機関との連携を継続し、学校全体の教育力を更に向上させる。 ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。 エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。	ア、生徒向け学校教育自己診断での授業に関する項目の肯定率を85%以上を維持する。 [90.1%] イ、保護者向け学校教育自己診断での大学等との連携に関する項目の肯定率を75%以上にする。 [72.3%] ウ、関関同立・産近甲龍レベル及び人気大学の延べ合格者を四年制大学合格者全体の30%以上を維持する。 [31.0%] エ、異文化理解・多文化共生や日本文化について希望者を対象にした探究活動を2回以上実施する。 [2回]	ア、授業に関する生徒の肯定率は90.0%と昨年度と変わらず高い水準を維持することができた。生徒が前向きに取り組んでいることが伺える。どの学年・どの授業であっても授業規律が保たれている状態が望ましく、教員の授業力向上に向けても精力的に授業改善に努めていく。【○】 イ、保護者の大学等との連携に関する項目の肯定率は73.4%となり、昨年より微増した。現状では第2学年進学クラスのみ、高大連携の取り組みが実施されており、今後は対象生徒を広げていくことが数値向上につながると考えられる。【△】 ウ、大学合格者数延べ78名のうち関西大学、近畿大学に合格者が出た。また、41.0%にあたる32名が摂神追桃レベル以上に合格している。今後も産近甲龍レベル以上に合格を出せるよう、学校としての取り組みが必要である。【△】 エ、今年度は外語専門学校の留学生との交流の1回のみの実施となった。校内体制を吟味し、明確な方針の策定など改善の余地がある。【△】

府立吹田高等学校

3 心身ともに健康であり続ける力の育成	心身ともに健康であり続ける力を育てる	ア、ヤングケアラーをはじめ、多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・特別支援サポート委員会と連携・協働し、合理的配慮が必要な生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携して、個別の支援方法（支援計画の作成等）を検討する。 ・学校医、学校歯科医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進を図る。 イ、教職員や生徒保健委員会等からアイデアや意見を聞き取り、日常の校内清掃活動の充実、校内美化の推進につなげていく。 ・各行事前等の清掃徹底週間では、特にトイレ、廊下、階段などの共用エリアの美化に重点的に取り組む。 ・生徒保健委員による掲示物作成や放送などによる美化啓発活動を実施し、校内美化意識をさらに向上させる。 ウ、生徒と教職員による定期安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 ・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。また、生徒の健康実態を把握し、生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を併せておこなう。	ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率を生徒保護者の平均75%以上にする。 [平均73.7%] イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均を70%以上にする。 [平均69.0%] ウ、安全点検を年に3回（各学期1回）実施し、事務室による対応結果の確実な共有を図る。 ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率95%以上を維持する。[98.2%] ・生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を年間5回以上実施する。[10回]	ア、教育相談に関する肯定率の平均は78.9%であった。（生徒79.4%、保護者77.0%）学校三師による健康相談は年間7回実施し、専門的立場から指導助言をいただいた。生徒情報会議（みかん会議）を今年度は年間6回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。SCやSSWと連携し、発達障がいを含む障がいがあり合理的配慮が必要な生徒や心身の健康について悩みを持つ生徒、ヤングケアラーなどの早期発見に努めるとともに、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした指導・支援を行った。【◎】 イ、清掃に関する肯定率の平均は72.4%（生徒78.4% 保護者66.4%）であった。【○】 ・日常の清掃活動に加えて、行事前後には清掃徹底週間や行事前清掃を年間5回実施し、学期末には大掃除を実施した。 ・生徒保健委員による清掃点検・美化ポスター作成・校内放送・クラス連絡などを実施し、美化意識の向上に努めた。 ウ、安全点検は1学期と2学期に全教職員で実施し、事務室での対応後その結果を職員会議、学校保健委員会で共有した。3学期は3月に実施した。【◎】 ・各講習会等の肯定的評価（理解度・満足度について）防災学習は96.6%（真剣に取り組めた人の割合）肯定的評価95%以上維持は達成している。 1年薬物乱用防止教室は98.1% 1年デートDV 予防啓発出前授業は93.1% 2年思春期講座は99.3% 3年健康教育講演会は97.9%【○】 ・生徒保健委員会の活動は、健康診断発育測定の準備、吹田高校生の食と睡眠のアンケート実施、学校保健委員会での発表、清掃徹底週間、清掃点検、大掃除放送、クラスでの各種連絡（体育祭準備、熱中症予防、文化祭準備、ごみの出し方、ペットボトルリサイクル）など啓発活動10回以上実施した。【◎】
	4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組み、保護者地域との連携強化	（1）校内組織の活性化、教師集団づくり ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編成」を学校全体の大きな取組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、校長の方針のもと運営委員会でその方針を共有し、学校全体で機能的に課題を解決する。 ・各グループ長を中心に、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。 イ、職員会議内のミニ研修等を活用（R4：8回実施）し、「知りたい」「知っていてほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。 （2）校務の効率化と働き方改革 ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料等を活用して報告事項の精査、資料の簡素化を図るとともに、会議のペーパーレス化を進めるなどして校務のさらなる効率化をめざす。	ア、教員向け学校教育自己診断の組織的な学校運営に関する項目の肯定率70%以上にする。[68.0%] イ、教員向け学校教育自己診断の研修に関する項目の肯定率40%以上にする。 [33.3%] ア、教員向け学校教育自己診断の校務の効率化に関する項目の肯定率80%以上を維持する。[82.1%] ・毎週水曜日を一斉退庁日とし、全員が退庁することを維持する。[特別な事情がある場合以外は実施]	ア、肯定率は75.0% 組織的な学校運営をめざし、仕事の効率化を図るため、全メールやSNSを活用し、情報提供を随時行った。組織として時間をかけてコミュニケーションをとりながら進めた方がいい局面もあるため、双方を適材適所に活用していきたい。【◎】 ・首席会議での情報共有はもとより、首席が普段から横断的に各分掌と連絡を密にとっていることで、組織として効果的に機能している。 イ、職員人権研修、セクハラ研修、ICT研修等を実施した。肯定率は52.8%と大幅に上昇した。今後も、教職員にとって需要の高い研修を提供していきたい。【◎】 ア、肯定率は69.4%と大幅に減少した。運営委員会、職員会議をペーパーレス化し、全教員がタブレットで情報共有を行うことで校務は効率化されたが、1人1台端末関連、デジタル採点などの新しい業務が増えたことにより生じる効率化されていないと感じられたことが原因と考えられる。【△】 ・業務量やその時その時の仕事自体に大きな変化はない。特に部活動指導で時間外勤務が増えてしまう側面がある。一斉退庁日は完全に全員が退庁とはなっていないが、徐々に浸透してきており、今後も啓発していく。【△】

府立吹田高等学校

	(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	ア、学校行事・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA 等の保護者との連携を強化する。 イ、首席が中心となり、より効果的な広報活動について引き続きトータルに検討し実施する。また、HP の更新頻度を上げ、情報発信の機会を拡大する。	ア、教員向け学校教育自己診断の PTA 活動に関する項目の肯定率を 60%以上を維持する。 [61.5%] イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率 80%以上を維持する。[88.4%]	ア、登下校時の自転車指導やマスク着用について、随時立ち番を行った。また、地域住民からの意見や要望を聞き、改善に努めた。体育祭や文化祭等で PTA と連携し、肯定率は 68.6%となった。次年度は PTA 活動をより活発化できるよう調整していく。【◎】 イ、保護者生徒を含む中学生や一般の方へは HP と SNS、保護者へはメールマガジン、生徒へは学習支援クラウドサービスと状況に応じて連絡手段を使い分け、緊急情報は土日であっても発信した。また、中学生向けの広報活動はすべて参加し、校内では4回の説明会を行った。校内の説明会は各回満員となった。肯定率 83.6%【○】
--	-------------------------------------	--	---	---